

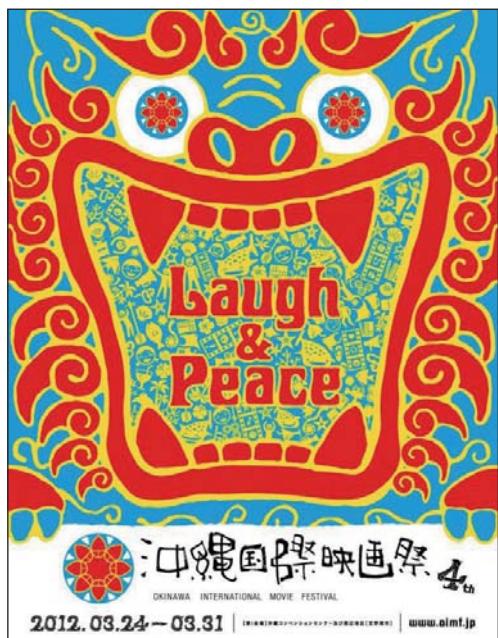
Laugh & Peace

第4回沖縄国際映画祭

前回は、開催直前に発生した東日本大震災により多くの方が被災され、開催が危ぶまれましたが、被災地の復興支援のチャリティーを柱に開催し、被災地及び全国に「エール」と「心つながり」を発信しました。

4回目を迎えた今回も、"Laugh & Peace" をコンセプトに映像を通して万人の心が通じ合う新しい映画祭&映像祭を目指し、映画の素晴らしさを地域と一緒に

第4回沖縄国際映画祭が2012年3月24日（土）～31日（土）の8日間、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター及び周辺地区を第1会場、那覇市の桜坂劇場及び国際通り周辺・北谷町を始め県内各所を第2会場として開催されました。



なって楽しむとともにコンテンツ産業の振興や地域活性化を目指して開催されました。また、これまで実施されてきた内容に加え、国内及び米国、アジア各国から大手メディア企業、コンテンツ制作会社などが参加し、活発なビジネスミーティングを実施する「コンテンツバザール」や、コンテンツランド内に「クール・ジャパン」（図1）のブースが設け

なって楽しむとともにコンテンツ産業の振興や地域活性化を目指して開催されました。その他、スイスから世界最大の屋外型スクリーンが持ち込まれ、大規模な野外上映を実施したり、江島のラム酒等が展示されました。撮影した「東日本大震災」の写真展が開催され、来場者の多くの方々に感動を与えてくれました。その他にもファッションや音楽、食など例年にも増して複合的な取組が実施されました。

実施概要

長編プログラム（Laugh部門、Peace部門）

本映画祭のテーマ "Laugh & Peace" の精神にのっとった「笑える、もしくは観終わった後に幸せな気分になる」というテーマに沿った長編作品を上映。

特別上映作品

日本のコメディ、世界のコメディ、ドキュメンタリーなどを会場のオープンエアスクリーンや桜坂映画大学等で上映。

地域発信型プロジェクト

国内5地域、タイ、フィリピン、台湾などの地域の人々と共に制作した映画を上映。

沖縄コンテンツランド

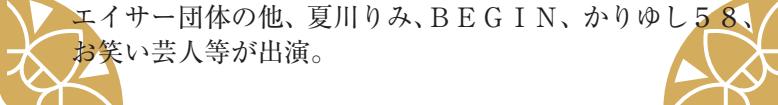
映画、TV、モバイル、ゲームといったコンテンツ関連企業の出展。

800名が観覧できるPRステージを設置、映画祭で上映される映画の紹介等を実施。

ビーチステージイベント

（地域参加型ライブ、お笑いライブ、音楽ライブ）

エイサー団体の他、夏川りみ、B E G I N、かりゆし58、お笑い芸人等が出演。



最終日の31日（土）には、枝野経済産業大臣が同映画祭を視察され、吉本興業株式会社の大崎社長との対談の後、クロージングセレモニーで来賓挨拶を行いました。枝野大臣は、当映画祭について、「日本・沖縄には世界に誇れる文化があり、日本にしかない活気、情熱がある。本映画祭は、これらの文化を世界に向けて発信してくれる。」と述べていました。



© 沖縄国際映画祭

期間中は概ね天候に恵まれ、春休みと重なったことから、多くの学生や家族連れの観衆が集まり、また、海外メディア等の取材により、例年以上に会場は熱気に包まれました。なお、開催期間中の入場者は、約41万人となり（主催者発表）、過去最多の入場者数を記録しました。

クール・ジャパン戦略（図1）

- クール・ジャパン戦略により、中小企業や若いデザイナーの海外展開を促し、国内への観光客誘致や地域活性化につなげ、雇用を確保する。

